



# AIAI

2026年3月期  
決算概要

AIAIグループ株式会社

証券コード：6557

© IDA Studio Inc.

# 目次

- 1 エグゼクティブサマリ**
- 2 2026年3月期 実績**
- 3 2027年3月期 業績予想**
- 4 M&A**
- 5 主要KPI**
- 6 投資・財務戦略**
- 7 Appendix**

1

# エグゼクティブサマリ



2026年3月期は、売上高146億円、営業利益11億円、EBITDA17.8億円となり、過去最高業績を更新。既存施設の充足率向上、療育・訪問支援・教育サービスの成長により、収益性が大きく改善した。

2027年3月期は、きららGHDの通期連結により売上高260億円、EBITDA27億円を見込む。統合初年度はのれん償却・PMI費用を織り込みつつ、営業利益12億円、当期純利益7億円と増益を計画。

今後は、AIAI三育圏の横展開と再現性あるPMIにより、M&A後の収益性向上と財務レバレッジの改善を両立し、EPSの継続的な向上を目指す。

損益計算書 (百万円)	2025年3月期実績		2026年3月期実績		前期比増減	
		構成比		構成比		
売上高合計	13,071	100.0%	14,633	100.0%	+1,562	12.0%
営業利益	733	5.6%	1,105	7.6%	+372	50.8%
EBITDA *	1,443	11.0%	1,783	12.2%	+340	23.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	421	3.2%	621	4.2%	+200	47.5%

当社は新たにEBITDAを開示項目といたしました。 \* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額 (単位未満切捨、小数点第2位以下四捨五入)



# AIAIグループの事業展開

# AIAI

未就学児を保育・教育・療育の3つの三育で支える独自のビジネスモデルAIAI三育圏を構築

## 療育

### AIAI PLUS AIAI REST



### AIAI VISIT



支援員が、保育園・幼稚園・小学校を訪ねてサポート

## 保育

### AIAI NURSERY



## 教育



2

**2026年3月期 実績**



# 2026年3月期 連結損益計算書

# AIAI

- ・売上高  
AIAI NURSERY 2施設新設、事業譲受による認可保育所4施設の取得、既存施設の公定価格上昇により前期比1,562百万円増の14,633百万円。
- ・営業利益  
保育士の人件費の増加ならびに「AIAI三育圏」拡大に向けたM&A費用の増加があったものの、前期比372百万円増の1,105百万円。
- ・親会社株主に帰属する当期純利益  
M&A資金調達費用等による営業外費用の増加等があったものの、前期計上の特別損失の減少効果もあり、前期比200百万円増。

損益計算書 (百万円)	2025年3月期		2026年3月期		増減	増減率
		構成比		構成比		
売上高合計	13,071	100%	14,633	100%	+1,562	12.0%
売上原価	10,933	83.6%	11,846	81.0%	+913	8.4%
売上総利益	2,138	16.4%	2,787	19.0%	+649	30.4%
販売管理費	1,404	10.7%	1,681	11.5%	+277	19.7%
EBITDA *	1,443	11.0%	1,783	12.2%	+340	23.6%
営業利益	733	5.6%	1,105	7.6%	+372	50.8%
経常利益	872	6.7%	933	6.4%	+61	7.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	421	3.2%	621	4.2%	+200	47.5%

## 売上高

AIAI NURSERYにおける新規施設・譲受施設の園児数増加による寄与に加え、既存施設の公定価格上昇及びAIAI PLUSの売上伸長により、前期比12%増。

## 売上原価

主に保育士の処遇改善による施設人件費が増加。

## 売上総利益

売上増効果が人件費を中心とした売上原価の増加を吸収したため、前期比649百万円増の2,787百万円。

## 純利益

M&A費用等の増加に加え、課税所得の増加による税負担の増加もあったが、前期計上の減損損失等の特別損失の減少効果によって前期を上回った。

当社は新たにEBITDAを開示項目といたしました。 \* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額 (単位未満切捨、小数点第2位以下四捨五入)



# 四半期PL推移

# AIAI

## ・売上高原価

売上高原価率は前期の81.6%、前四半期の82.3%をいずれも下回る水準で推移。

## ・販管費

前期比+277百万円。主に株式会社きららグループホールディングス株式等取得に係るM&A費用が第4四半期に発生したことによる。

グラフ枠外数値  
は売上高を表示  
(百万円)

→AIAIグループに社名変更  
(2022年1月1日)

→AIAI三育圏開始  
(2023年5月19日開示)

→介護事業譲渡  
(2024年5月30日開示)

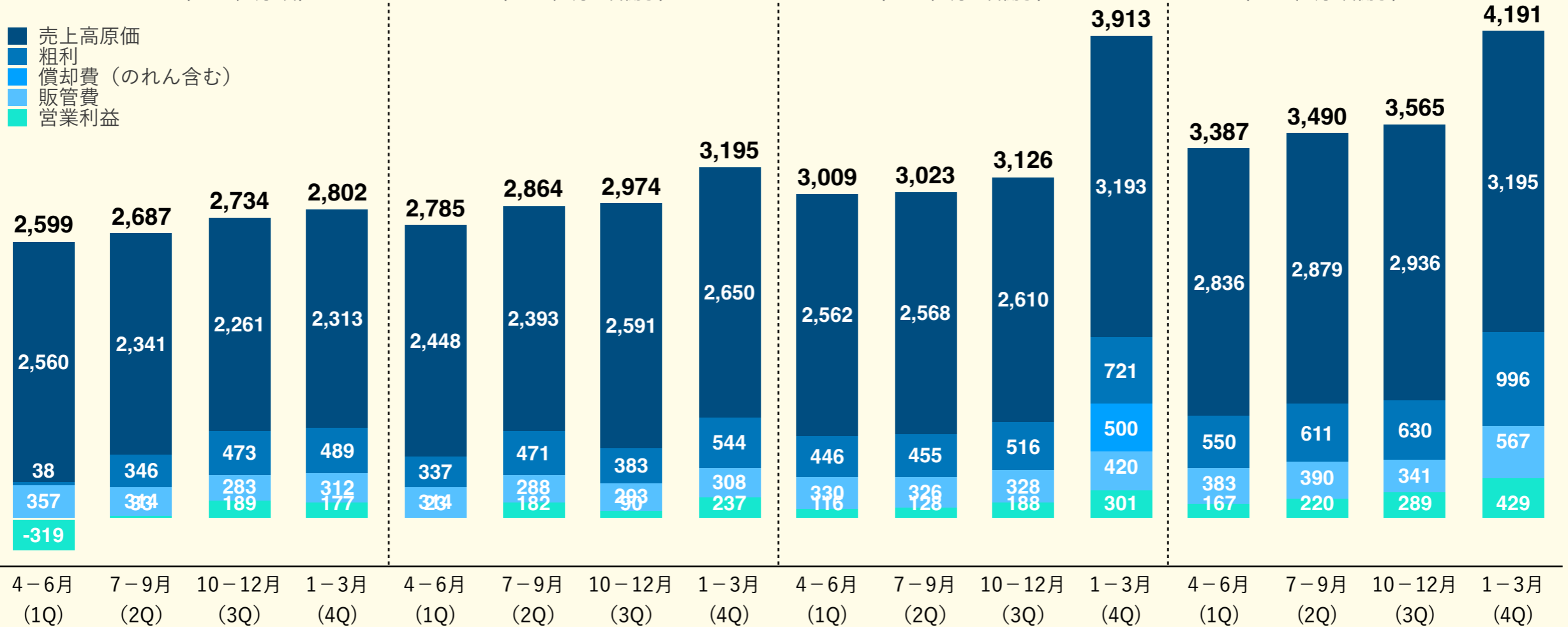
→AIAI VISIT開始  
(2024年10月1日開示)

→在宅支援総合ケアサービスM&A  
(2025年3月26日開示)

→ぽこころ統合M&A  
(2025年4月1日開示)

→きららGHD統合  
(2026年2月27日開示)

- 売上高原価
- 粗利
- 償却費 (のれん含む)
- 販管費
- 営業利益



	2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期			
営業利益率	-12.3%	1.2%	6.9%	6.3%	0.8%	6.4%	3.0%	7.4%	3.9%	4.2%	6.0%	7.7%	4.9%	6.3%	8.1%	8.1%
EBITDA	-	-	-	-	-	-	-	-	292	307	363	481	338	390	460	595

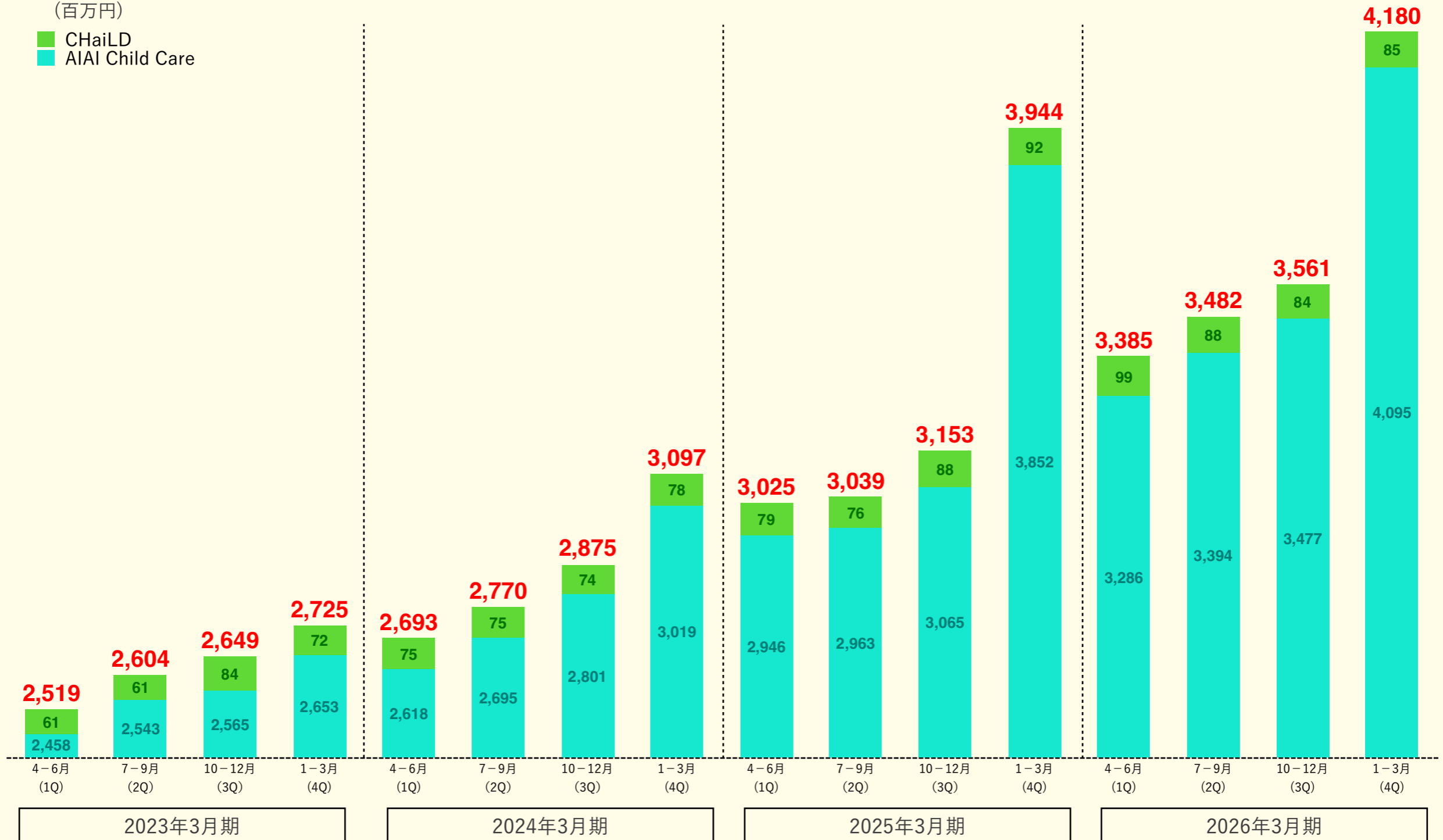


# 子会社別売上高推移

A I A I 三育圏を推進し、売上高を増やす。

グラフ枠外数値  
は売上高を表示  
(百万円)

■ CHaiLD  
■ AIAI Child Care



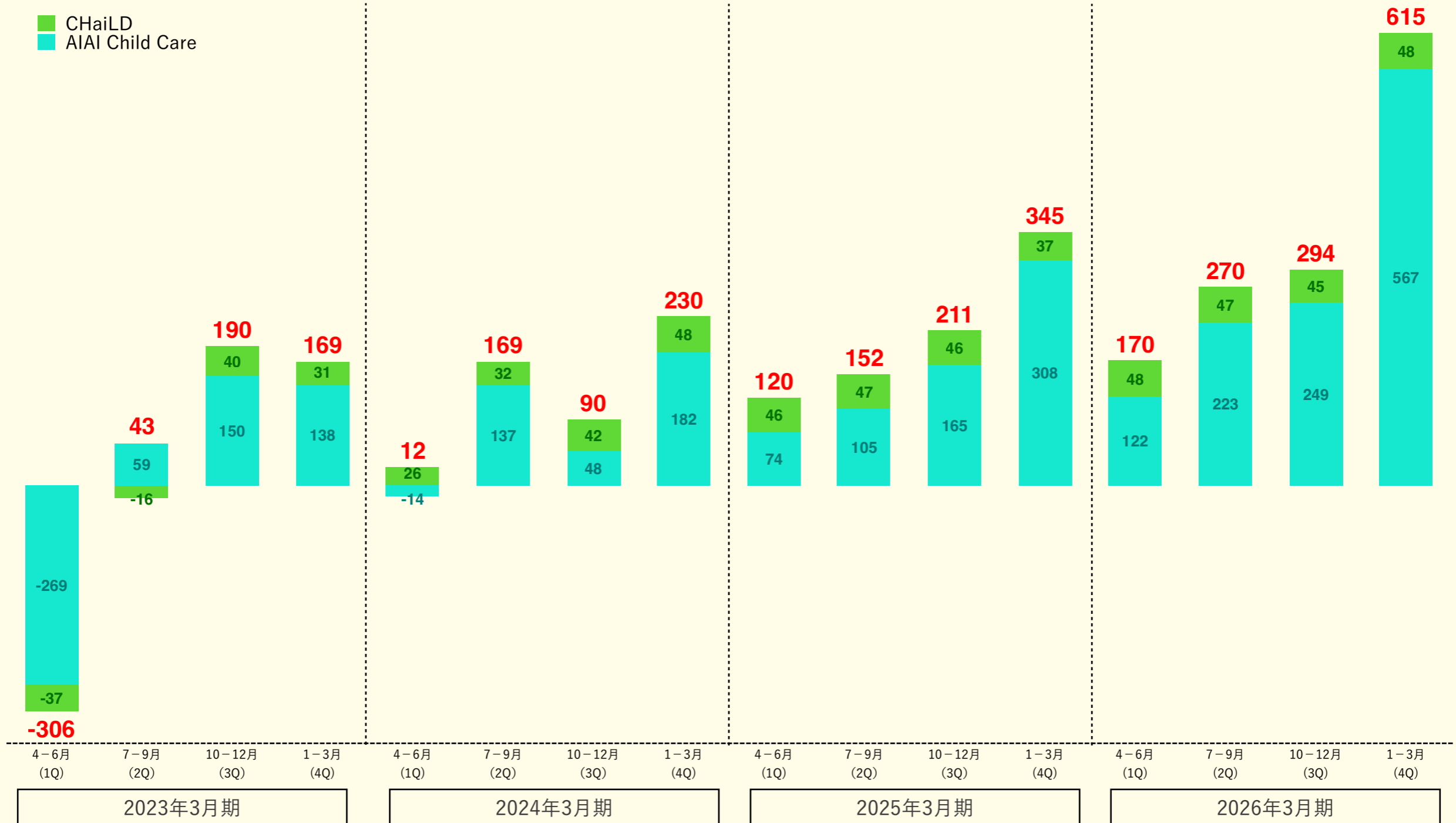


# 子会社別営業利益推移

A I A I 三育圏を推進し、各社の業績を向上させつつ、生産性の向上を図る。

グラフ枠外数値は  
営業利益を表示  
(百万円)

■ CHaiLD  
■ AIAI Child Care





# 2026年3月期 連結貸借対照表

# AIAI

2026年3月期第4四半期に株式会社きららグループホールディングス株式等取得を実行したことにより、総資産は前期末比14,458百万円増の26,930百万円。

			2025年3月期				2026年3月期						
			Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	前期比		
			(百万円)										
資産	流動資産	現金及び預金	1,904	1,942	1,727	2,346	2,386	1,710	1,625	4,105	1,759		
		株式等	1,159	1,233	1,459	2,304	1,287	1,427	1,570	3,566	1,262		
		その他	71	605	757	749	997	926	839	841	91		
	固定資産	のれん	106	95	84	73	62	51	40	8,219	8,146		
		施設設備等	6,387	6,229	6,147	5,855	5,721	5,623	5,556	8,223	2,368		
		その他	1,056	995	1,013	1,142	1,187	1,185	1,116	1,975	832		
資産合計		10,685	11,103	11,189	12,472	11,641	10,923	10,749	26,930	14,458			
負債	有利子負債	6,815	6,707	6,533	7,043	6,230	5,858	5,627	19,423	12,380			
	その他	1,921	1,859	1,949	2,611	2,299	2,207	2,127	4,259	1,648			
純資産	資本金（余剰金含む）	1,546	1,814	1,830	1,830	1,830	1,830	1,847	1,862	32			
	利益剰余金	▲ 70	▲ 76	35	189	336	459	654	899	709			
	その他	472	798	841	797	944	566	491	484	▲ 312			
負債：純資産合計		10,685	11,103	11,189	12,472	11,641	10,923	10,749	26,930	14,458			

**現金及び預金**  
資金の借入等により1,759百万円増の4,105百万円。

**のれん**  
株式会社きららグループホールディングスの株式等取得に伴い8,146百万円増の8,219百万円。

**設備投資等**  
取得会社の連結取込及び施設整備等により2,368百万円増の8,223百万円。

**資本金・資本剰余金**  
新株予約権の行使等により32百万円増の1,862百万円。

**3**

# **2027年3月期 業績予想**



# 2027年3月期 連結業績予想サマリ

- ・ 2027年3月期は、2026年2月にグループ化したきららGHDグループの通期連結寄与
- ・ 「AIAI三育圏」におけるシナジー効果の拡大及び生産性向上により、売上高260億円（前期比+77.7%）、営業利益12億円（同+8.5%）、親会社株主に帰属する当期純利益は7億円（同+12.6%）を見込み、増収増益となる見通し。
- ・ 統合初年度はのれん償却・PMI費用・成長投資を織り込みつつ、EBITDAは27億円へ拡大。初年度から営業利益・当期純利益ともに増益を確保し、PMIによる利益率改善を次年度以降に加速。

損益計算書 (百万円)	2026年3月期実績		2027年3月期予想		前期比増減	
		構成比		構成比		
売上高合計	14,633	100.0%	26,000	100.0%	11,367	77.7%
営業利益	1,105	7.6%	1,200	4.6%	95	8.5%
EBITDA *	1,783	12.2%	2,700	10.4%	917	51.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	621	4.2%	700	2.7%	79	12.6%

当社は新たにEBITDAを開示項目といたしました。 \* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額（単位未満切捨、小数点第2位以下四捨五入）

**4**

**M&A**



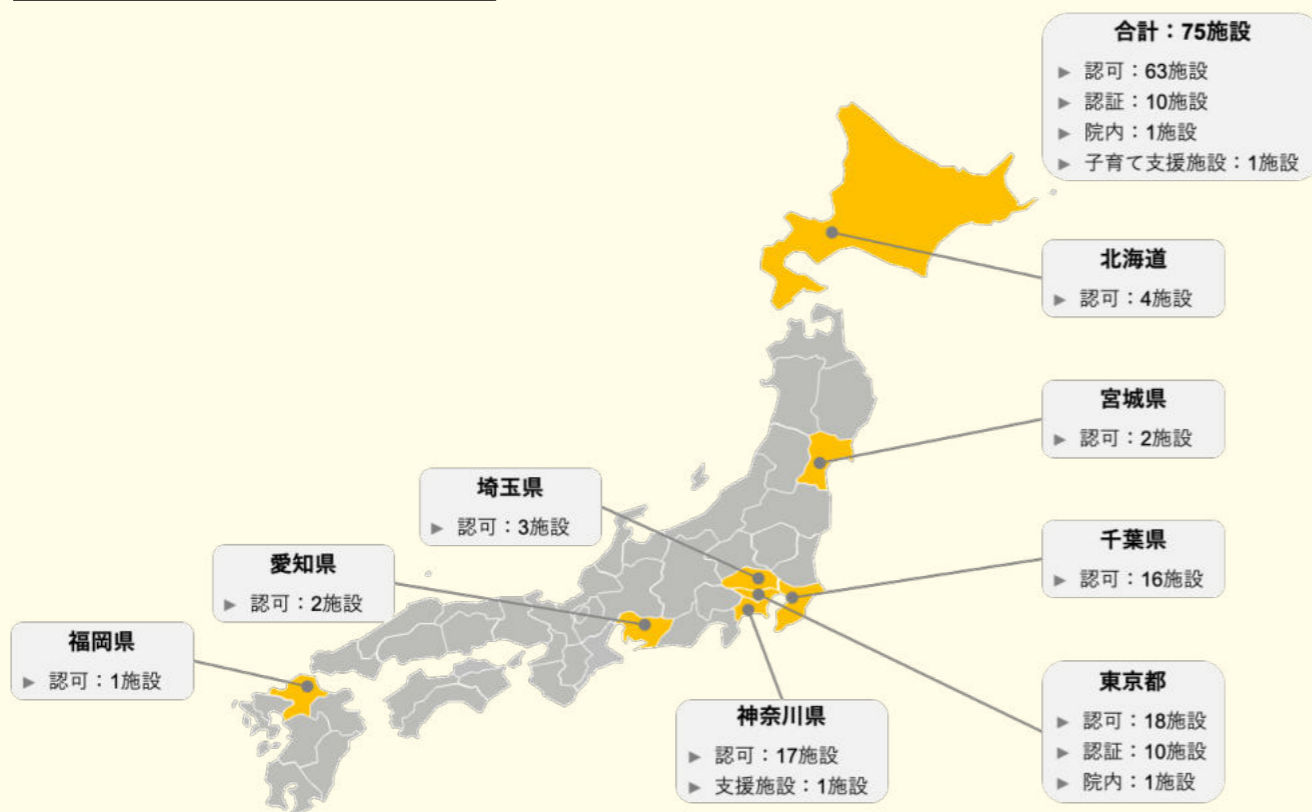
# 株式会社きさらグループホールディングスの概要

# AIAI

- ・「雲母保育園」等を運営する株式会社モード・プランニング・ジャパンを傘下に持つ、株式会社きさらグループホールディングスを完全子会社化
- ・全国主要都市でのAIAI三育圏の拡大を主軸として、保育×療育×教育の競争優位性をより強固にするグループ経営を展開

## 対象会社概要

会社名称	株式会社きさらグループホールディングス
本社住所	東京都中央区銀座七丁目16番12号
創業年	1991年
子会社	株式会社モード・プランニング・ジャパン



2025年12月時点

## 事業の特徴

- ・関東圏を中心に全国主要都市で認可保育園を展開。
- ・平均充足率92%と、都市部平均91.6%と同水準で推移
- ・DDにおける営業利益率2.4%とEBITDAマージン7.1%
- ・AIAIグループが展開するAIAI三育圏の拡大を目的とし、同社とのM&Aを通じて、エリアカバー率がなかったエリアにおける事業拡大を加速
- ・対象会社の収益性を拡大させつつ、AIAIグループの戦略に沿ったPMIにおけるグループシナジーの早期創出を目指す

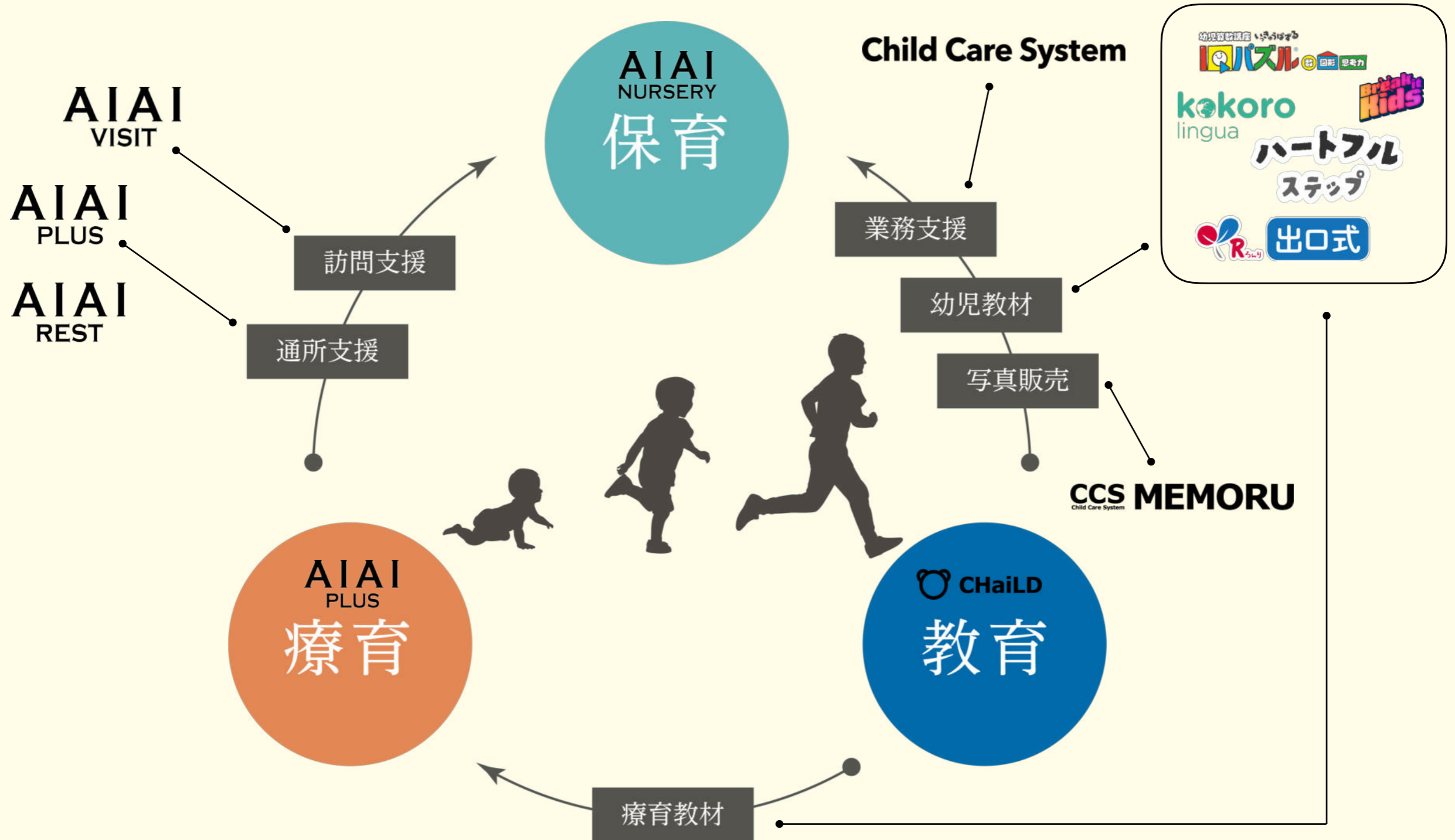
## 業績の概要

売上高	9,150百万円
調整後営業利益	220百万円
調整後EBITDA	650百万円

調整後営業利益・EBITDAは、DD実施における正常収益力調整後の数値で記載



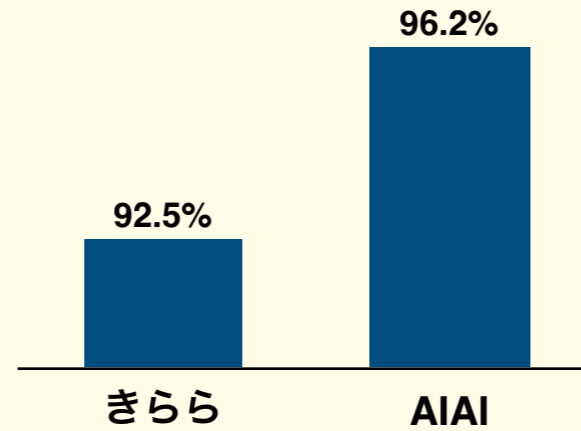
全ての園児に対して、教育と療育を提供する体制を自社内に構築



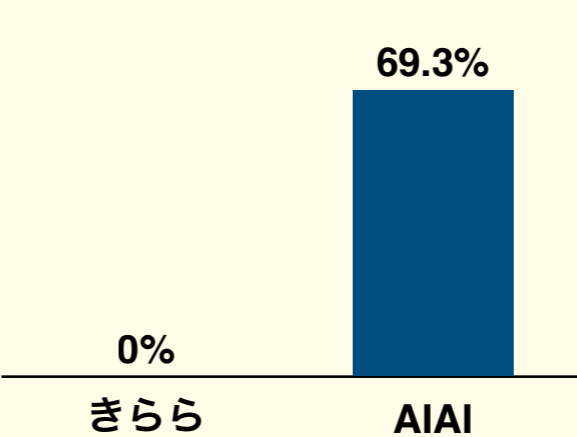


## 主要KPI

### 充足率

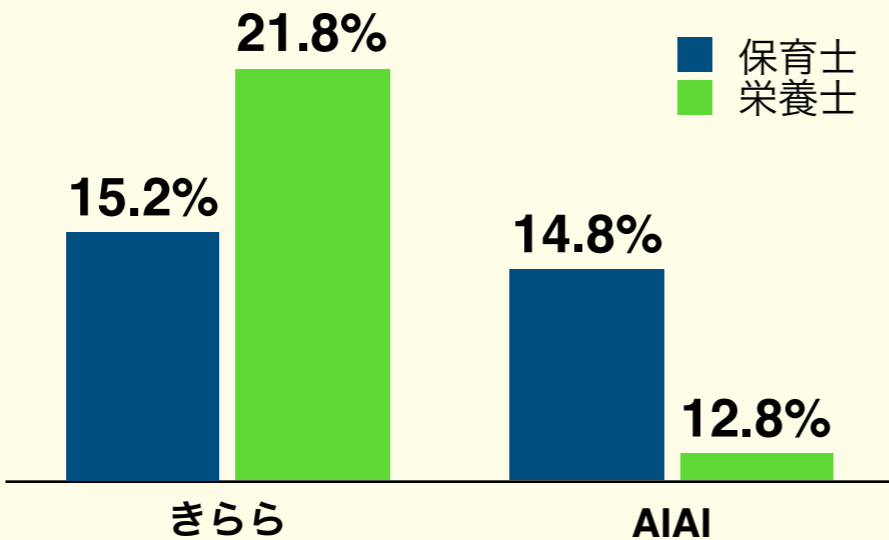


### 加入率

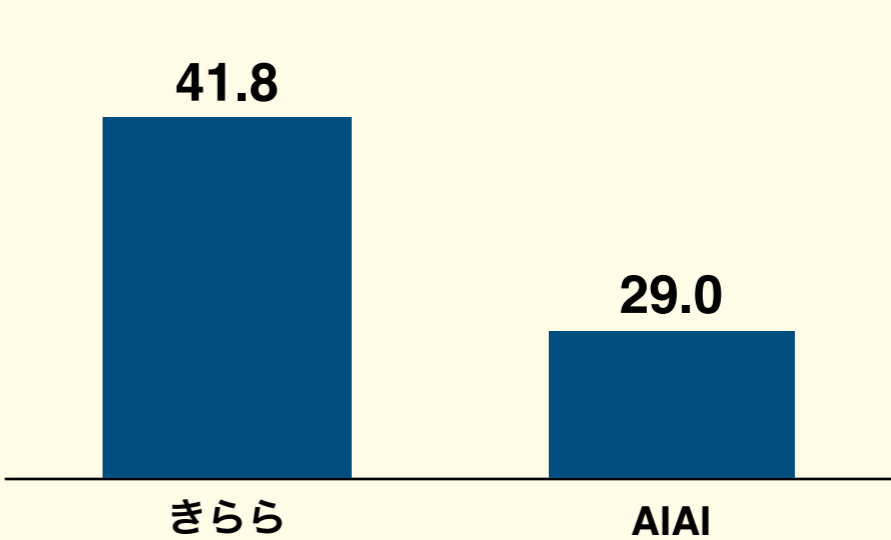


加入率は、AIAIグループの幼児教育の割合。  
きららGHDでは当該サービス未導入のため0%として表示。

### 離職率



### 採用単価 (万円)





# AIAI STYLE PMIの2つの型：Expansion / Optimization AIAI

PMIの大部分は、新たな施策を導入するものではなく、当社がこれまで築いてきた強みを展開する。

幼児教育

療育

母店制度

金利の改善

## Expansion

現場の生産性の向上

## Optimization

オフィスの生産性の向上

写真販売

CCS

インスペクト

オフィス統合



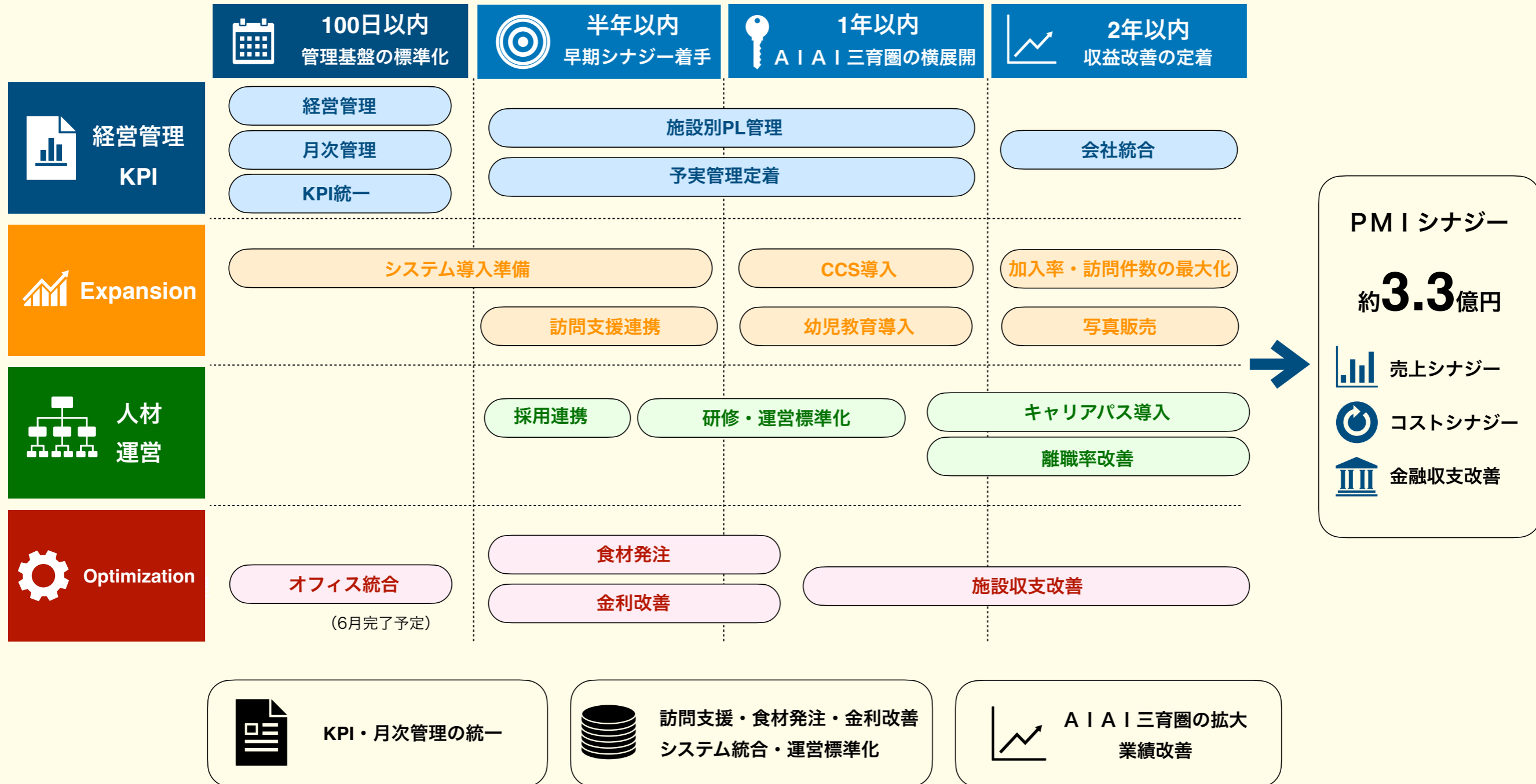
PMIにより約**3.3億円**の売上上積み・コスト低減・金融収支改善効果を計画





# PMIロードマップ：標準化から収益最大化まで

きららGHD統合後、100日以内に経営管理・KPIを標準化し、1年以内にAIAI三育圏を横展開。  
2年目以降は施設収支・本部機能・財務費用の最適化により、PMIシナジーの利益貢献を最大化する。





# 今後のM&Aの方針について

認可保育事業と療育事業のM&Aを最優先とし、A I A I 三育圏の拡大と強化に寄与するM&Aを継続  
再現性のあるPMIによりシナジーを創出し、投資対効果を高めて、企業価値の向上を目指す

## M & A ターゲット

## M & A ルール

最注力

### 1 認可保育事業：A I A I 三育圏の拡大

・ 保育園数・園児数の拡大、幼児教育・写真販売・訪問支援の横展開

最注力

### 2 療育事業：A I A I 三育圏の拡大

・ 療育施設数・利用者数の拡大、保育園との連携、訪問支援の拡大

### 3 隣接領域事業：シナジー効果の拡大

・ AIAI三育圏との親和性が高く、粗利向上・本部効率化に寄与する領域

キャッシュフローを重視し、EBITDA倍率の上限設定  
初年度からのれん償却後営業利益が黒字となる案件

PMIによってシナジー創出を見込める事業

PMIフレームワーク

#### 保育事業

幼児教育の導入

療育の導入

写真販売の導入

#### 療育事業

訪問支援の導入

直営との連携

療育の標準化

#### オフィス

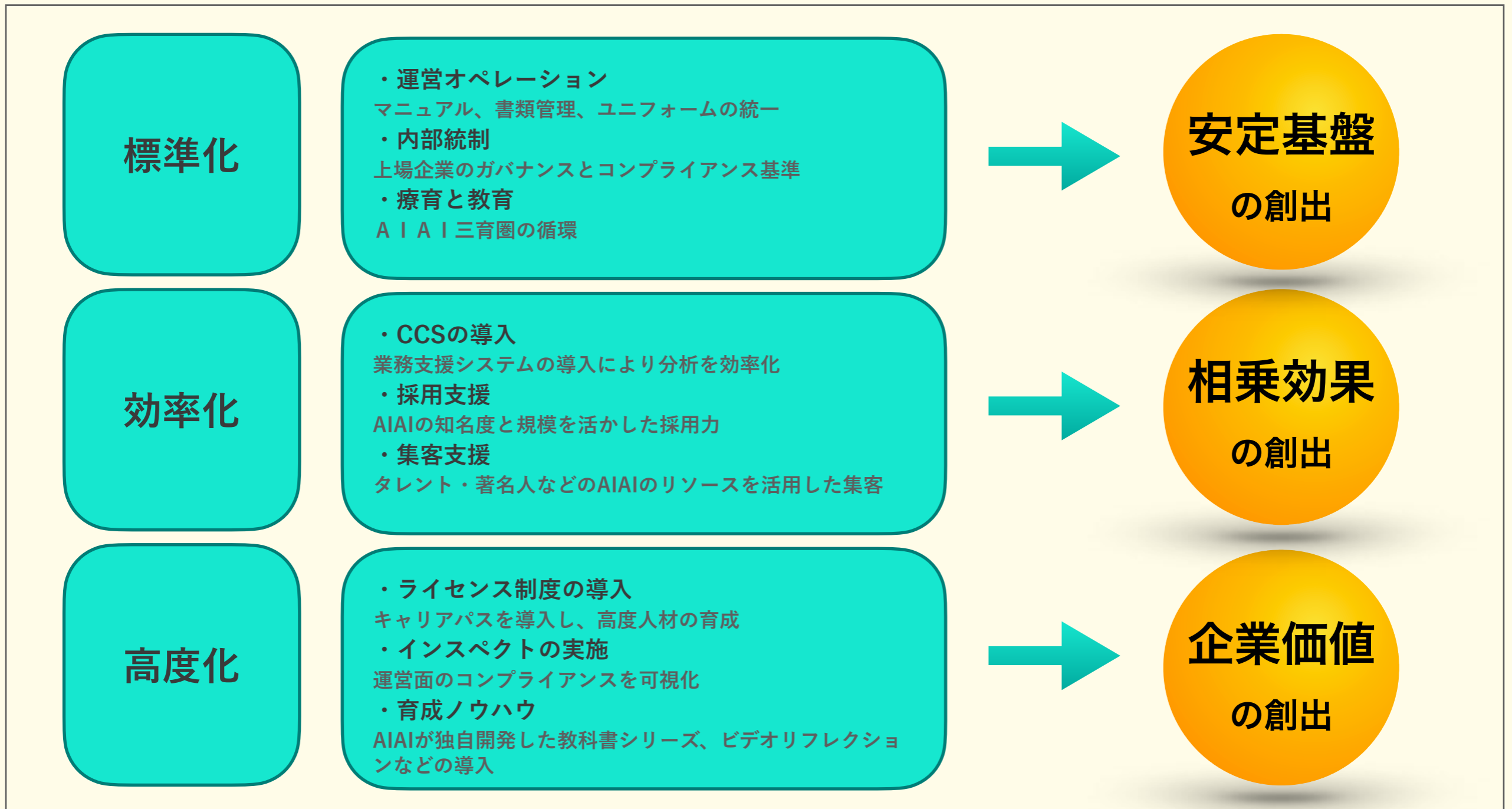
オフィス統合

金利改善

システム統一



AIAIの強みを活かしたPMIの実行により、シナジーの早期創出による利益貢献を生み出す  
 同業のM&Aが中心であり、対象会社の解像度が高く、AIAIと比較対象とした課題と対策が明確  
 標準化によって安定基盤を築き、効率化してシナジー効果を生み出し、高度化して企業価値を高める。



5

主要KPI



# AIAIの主要KPI

A I A I グループには、4つの主要KPIがあり、充足率（保育事業）、稼働率（療育事業）、訪問率（訪問事業）、加入率（幼児教育・業務支援）を高めることで生産性向上に努める。

	項目	=	件数	×	率	×	単価
1	NURSERY 保育事業	=	利用定員	×	充足率	×	利用単価
2	PLUS・REST 療育事業	=	利用枠	×	稼働率	×	利用単価
3	VISIT 訪問事業	=	訪問可能枠	×	訪問率	×	訪問単価
4	CHaiLD 業務支援	=	直営園児数	×	加入率	×	利用単価

\* 訪問可能枠は訪問支援が毎月2回/人が上限のため契約件数の2倍とする  
\* 業務支援は、システム・写真・幼児教材の販売



# AIAI NURSERYの園児数と充足率

AIAI NURSERYの園児数と充足率は、ともに過去最高を更新。乳児クラスは弾力化により定員を超える園児数が入園、また、幼児教育が支持されており、定員数が多い幼児クラスにおいても高い充足率につながった。

## 園児数の状況

年齢	園児数	充足率
0歳児	494	104.4%
1歳児	920	104.0%
2歳児	985	101.4%
3歳児	971	94.2%
4歳児	959	91.7%
5歳児	902	87.3%
合計	5,231	96.2%

2026年3月

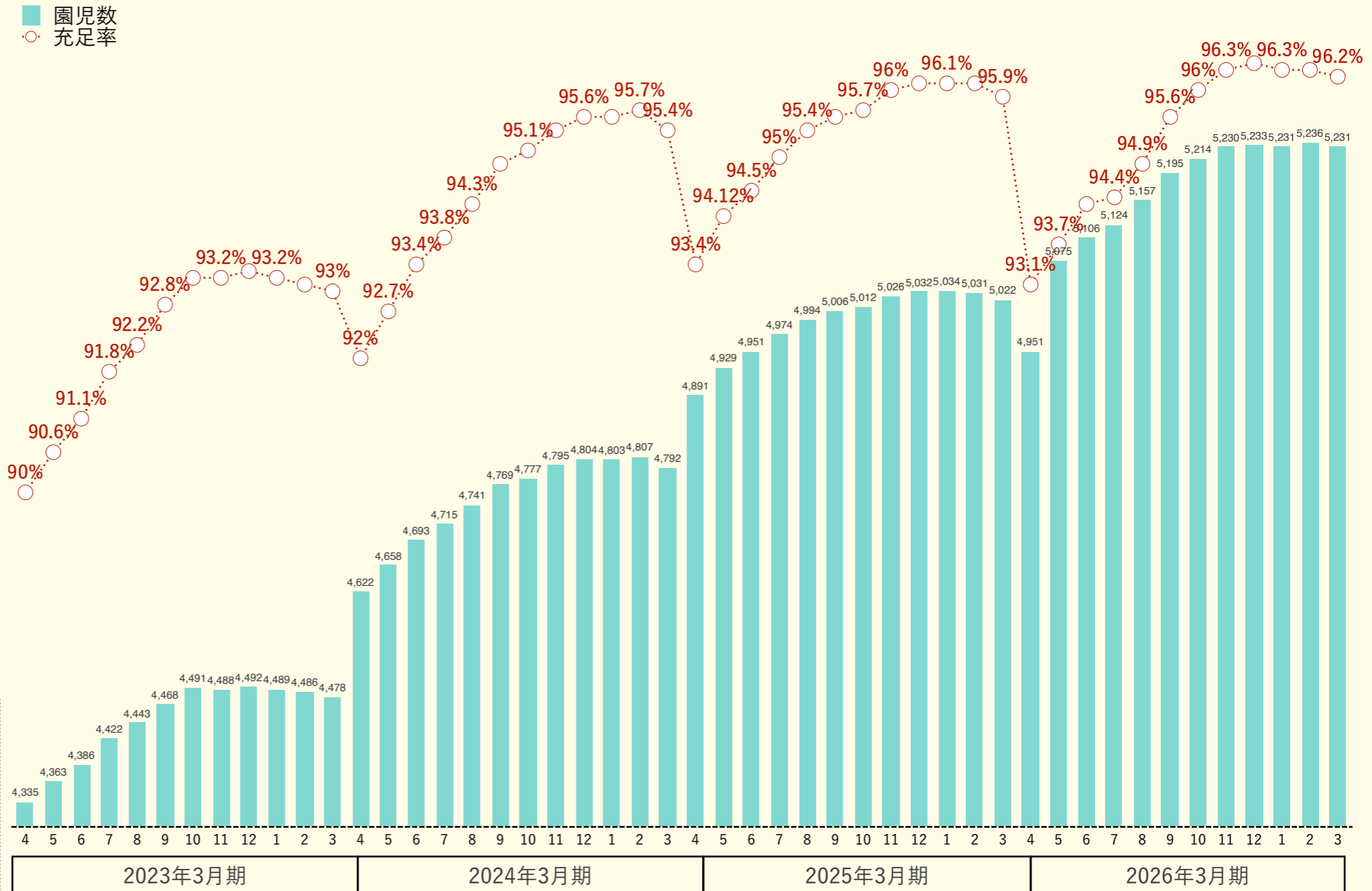
### 園児数

5,231名と過去最高を記録。幼児教育提供以降、3歳児以降の充足率が向上。

### 充足率

最高充足率96.2%と過去最高を記録し、全国平均充足率88.4%を上回る水準で推移。

## 園児数及び充足率の状況

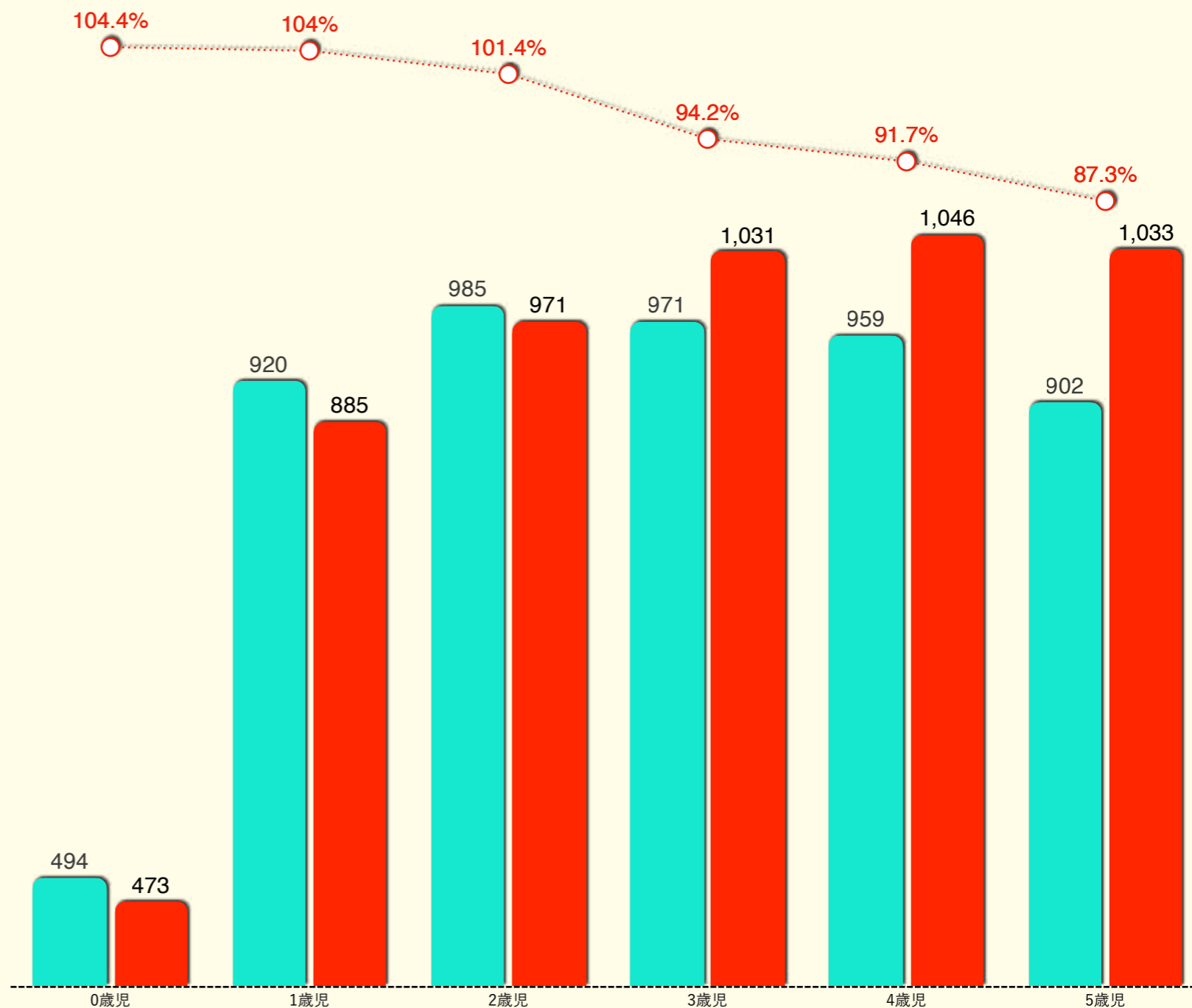




# AIAI NURSERYの年齢別定員・園児数

AIAI NURSERYの園児数は5,231人、充足率は96.2%となった。充足率は過去最高を更新。

AIAIの園児数の状況			
年齢	園児数	定員	充足率
0歳児	494	473	104.4%
1歳児	920	885	104.0%
2歳児	985	971	101.4%
3歳児	971	1031	94.2%
4歳児	959	1046	91.7%
5歳児	902	1033	87.3%
合計	5,231	5,439	96.2%



2026年3月



# AI AI PLUS・RESTの利用者数と稼働率

AI AI PLUS・RESTの利用者数は順調に推移し、**過去最高の2,021名**。  
稼働率は、平均100%以上で順調に推移。

\* 稼働率 = 利用実績 / 利用可能枠。自治体によっては120%まで利用可能。

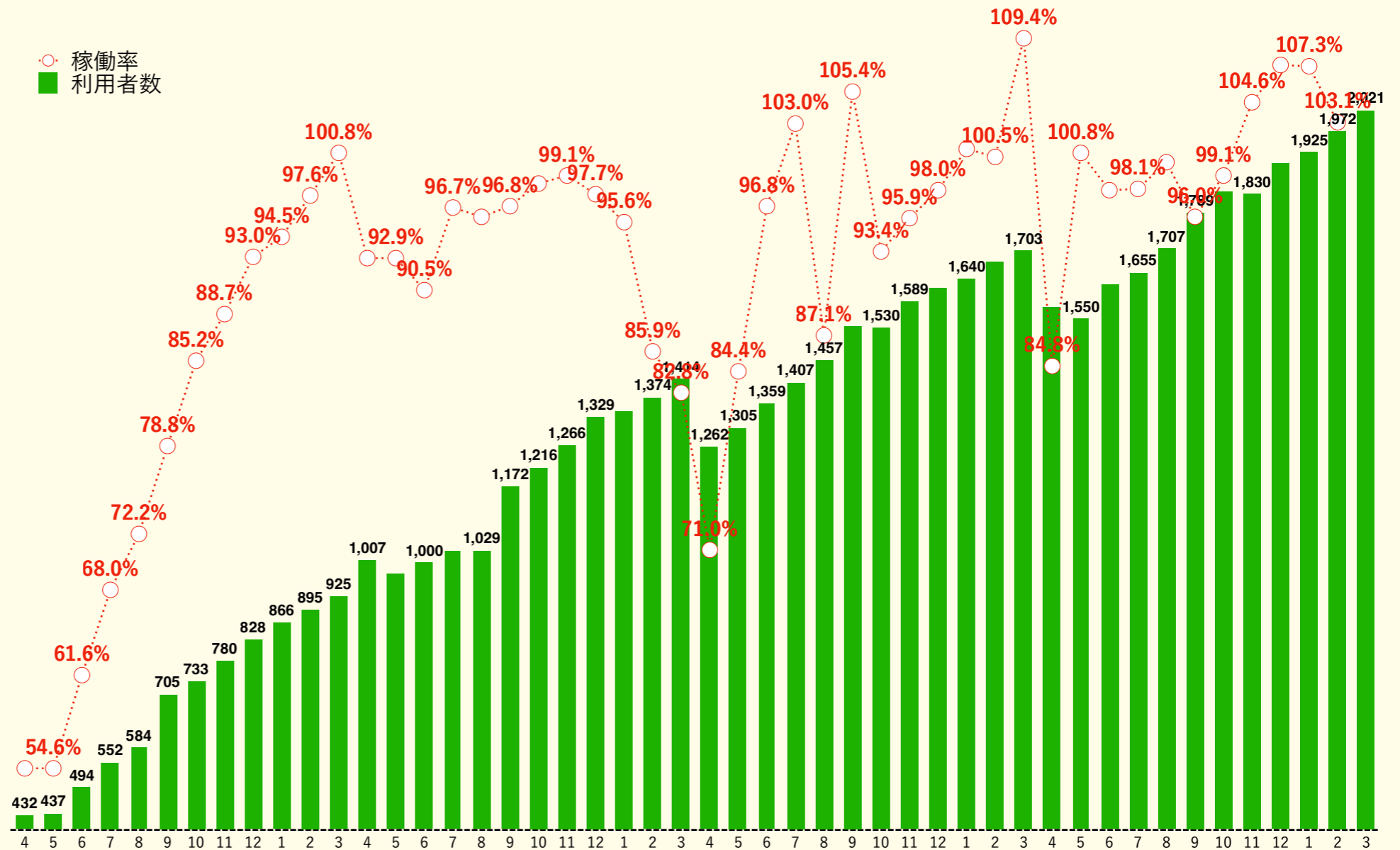
## 利用者数

利用者数は、過去最高の2,021人を更新し、4年前の約5倍に成長。今後は、4月の利用者減を解消し、早期療育を実現させる。  
また、施設数の拡大により、さらなる成長を計画。

## 稼働率

療育の通所事業の稼働率は、これまで課題であった当日キャンセルの対策が効果を発揮し、高水準で安定してきている。  
今後は、新年度（4月）の稼働率の低下に対して対策を立て、さらなる稼働率の向上に努める。

## 契約件数と稼働率



2023年3月期      2024年3月期      2025年3月期      2026年3月期



# AIAI VISITの訪問件数と訪問率

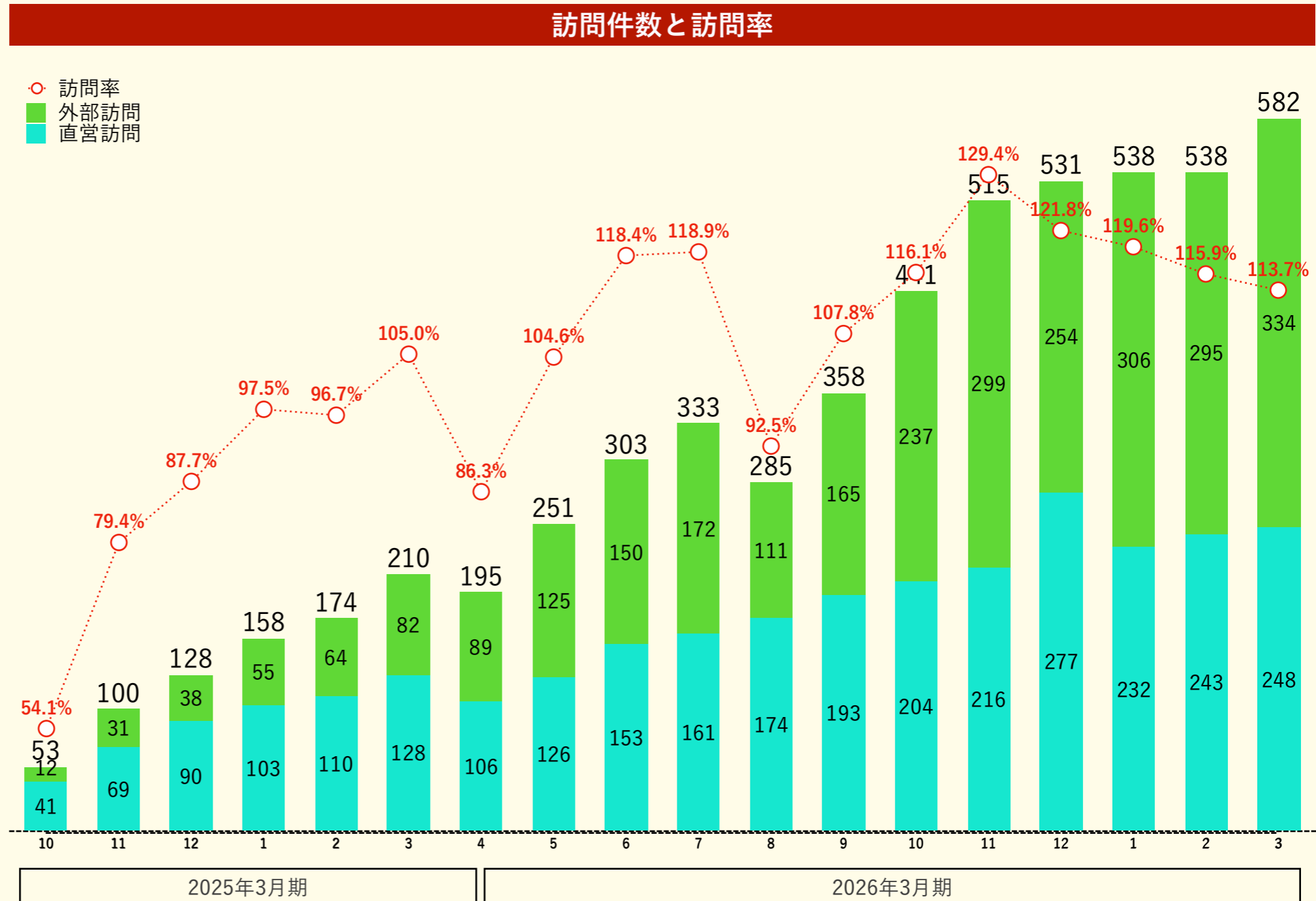
AIAI VISITの訪問件数は、直営園への訪問を基軸に外部園への訪問を積み重ね過去最高の582件。訪問率も契約件数以上の訪問依頼を追い風に100%以上を推移。

## 訪問件数

VISIT事業の訪問件数は、過去最高の582件を更新。事業開始当初は、直営園への訪問支援が中心だったが、1年後には外部園への訪問件数が上回り、現在も増加中。今後も、M&Aによって増加した直営園に訪問し、直営訪問増を目指す。

## 訪問率

VISIT事業の訪問率は契約件数を上回る水準で安定している。来期は、課題であった訪問支援員を増員し、さらなる訪問支援件数を上積みする。





# PLUS・REST・VISITの合計訪問支援件数と単価

- ・訪問件数は、過去最高の1,936件を更新。
- ・訪問単価は、1.7万円台を維持。

## 訪問件数

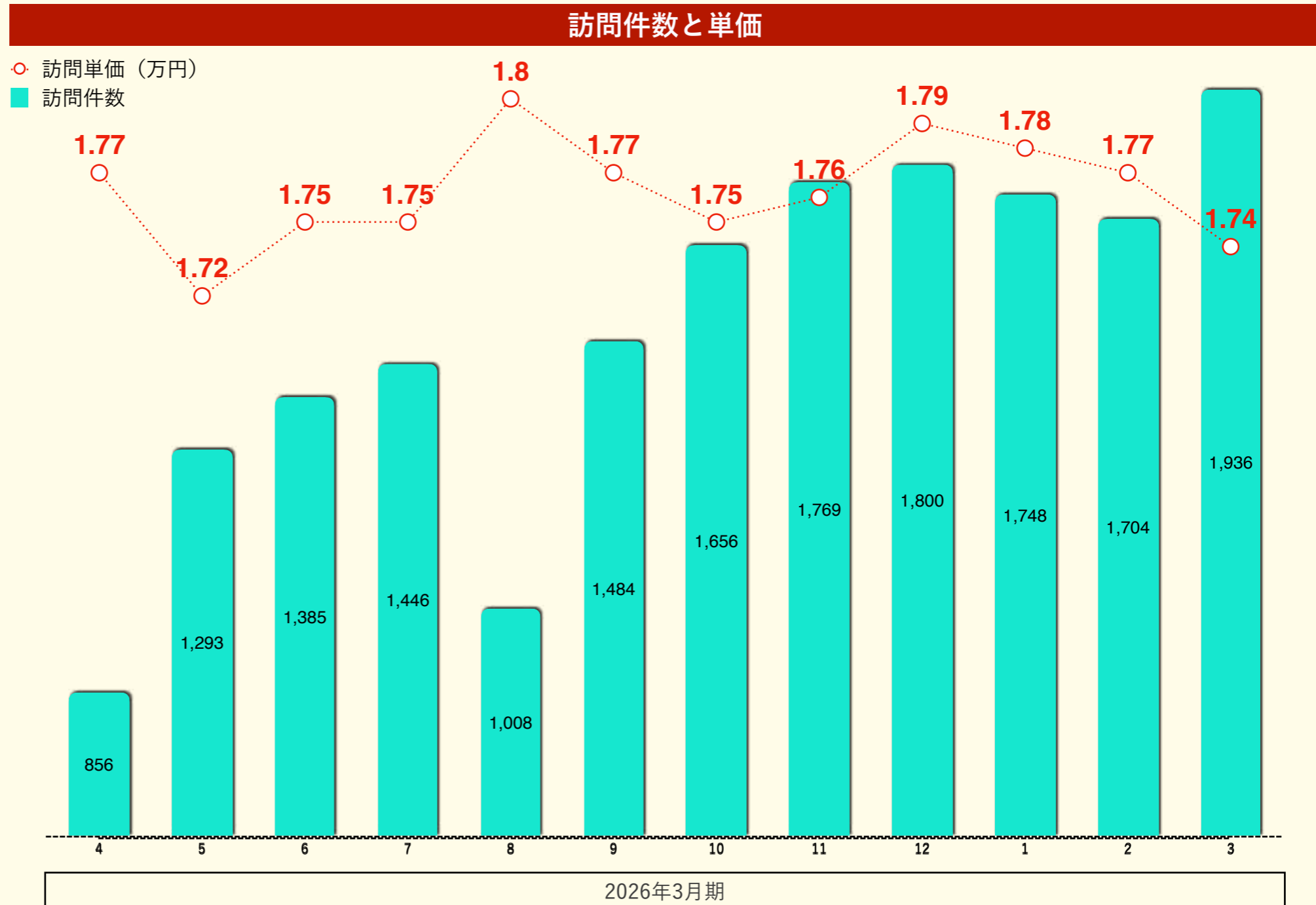
訪問件数は、過去最高の1,936件を更新。来期は、新卒職員の配置拡大により、さらなる訪問件数増加を計画。

## 訪問単価

訪問単価は、1.7万円台を維持するが、来期は新卒増加による単価の減少を見込む。

## 来期方針

新卒の配置による単価減少を見込むも、訪問件数の増加により売上増を見込む。粗利益は現状水準を維持する見通し。





# CHaiLDの加入率

CHaiLDの加入率は、69.3%で過去最高を更新。

特に、幼児教材が好評となり売上を牽引したことで、今期売上高は1.8億円超。

## 加入率

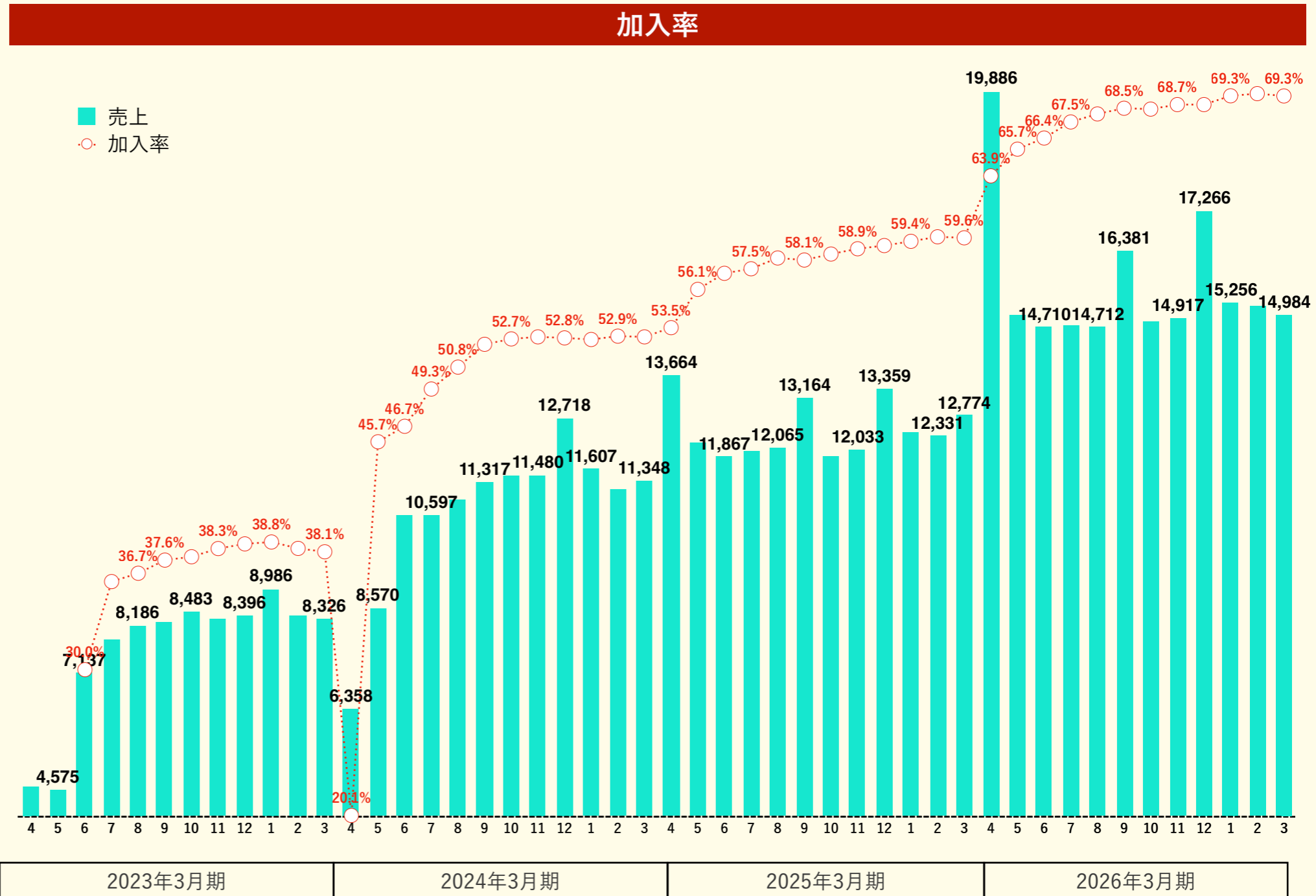
2023年3月期から提供開始した幼児教育は加入者が毎年増加し、加入率は約7割に到達し、過去最高を更新した。

## 写真販売

自社開発アプリによる写真販売が好調となり毎月増加。来期は価格体系の見直しにより、さらなる収益拡大を見込む。

## 幼児教材

思考教育、運動、国語、英語などの幼児教材に加えて、来期からは道徳教育も提供を開始し、さらなる充実を図る。

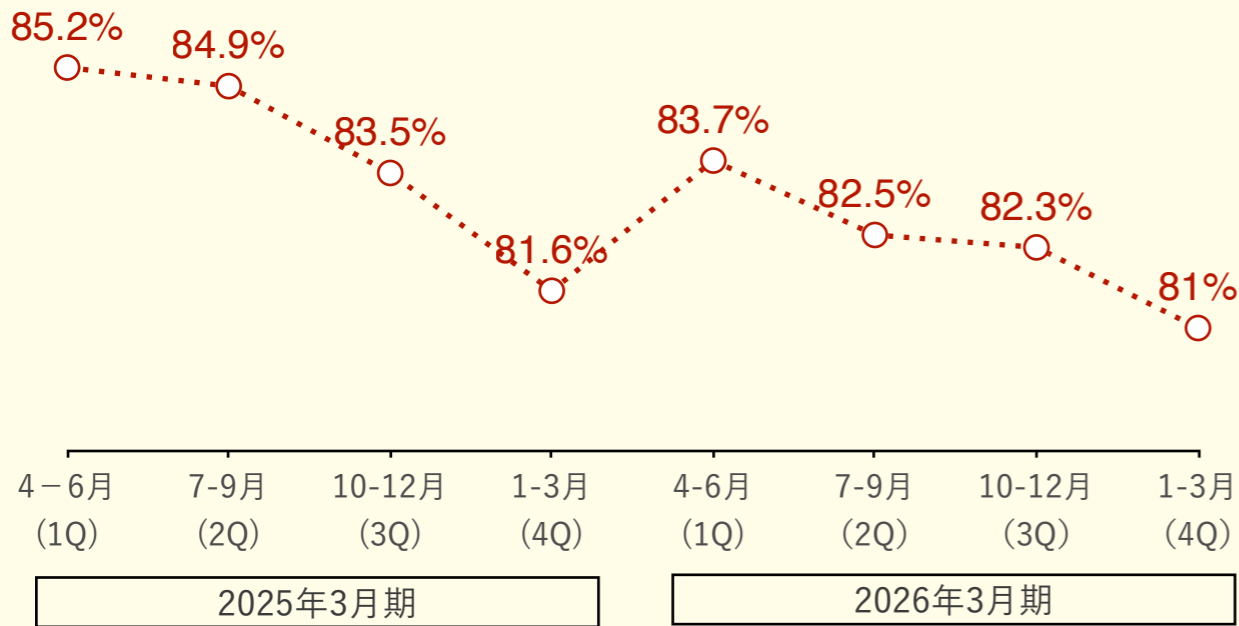




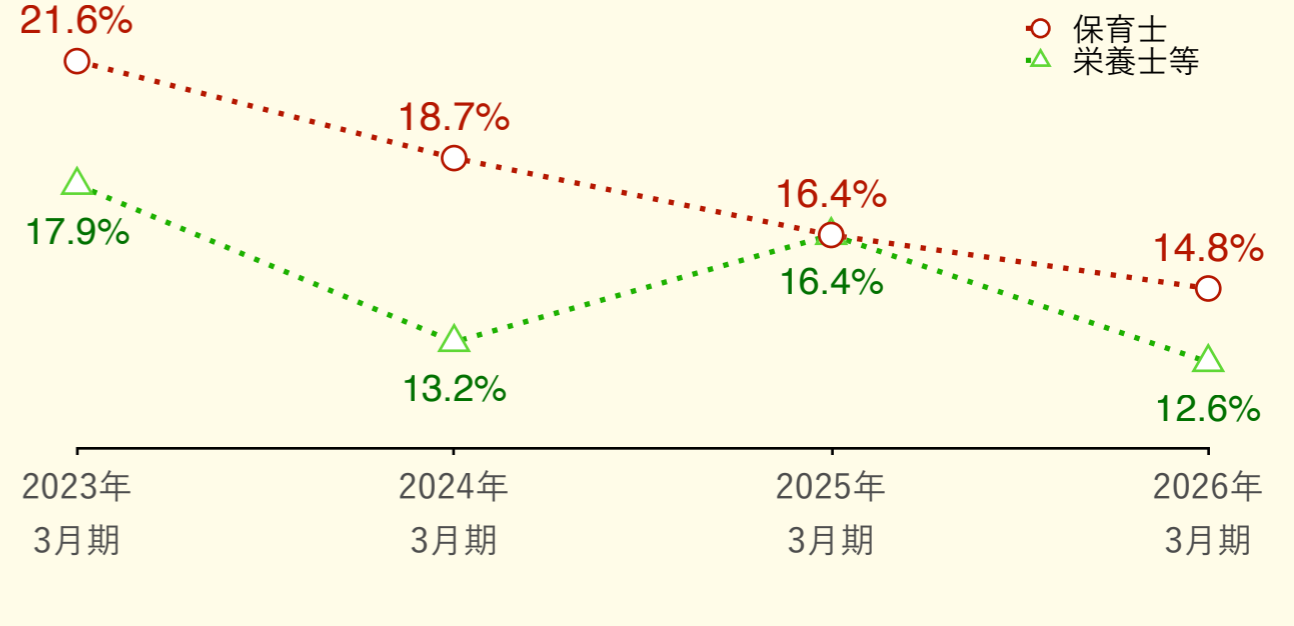
# その他KPI

売上高原価率は概ね80%台で推移し、生産性向上施策によりQ4は過去最低を更新した一方で、売上高販管費率は、M&A関連費用の発生によりQ4で上昇した。離職率は低下傾向にあり、保育士、栄養士等ともに改善。療育の採用単価が大きく低下し、全体の採用効率が改善。

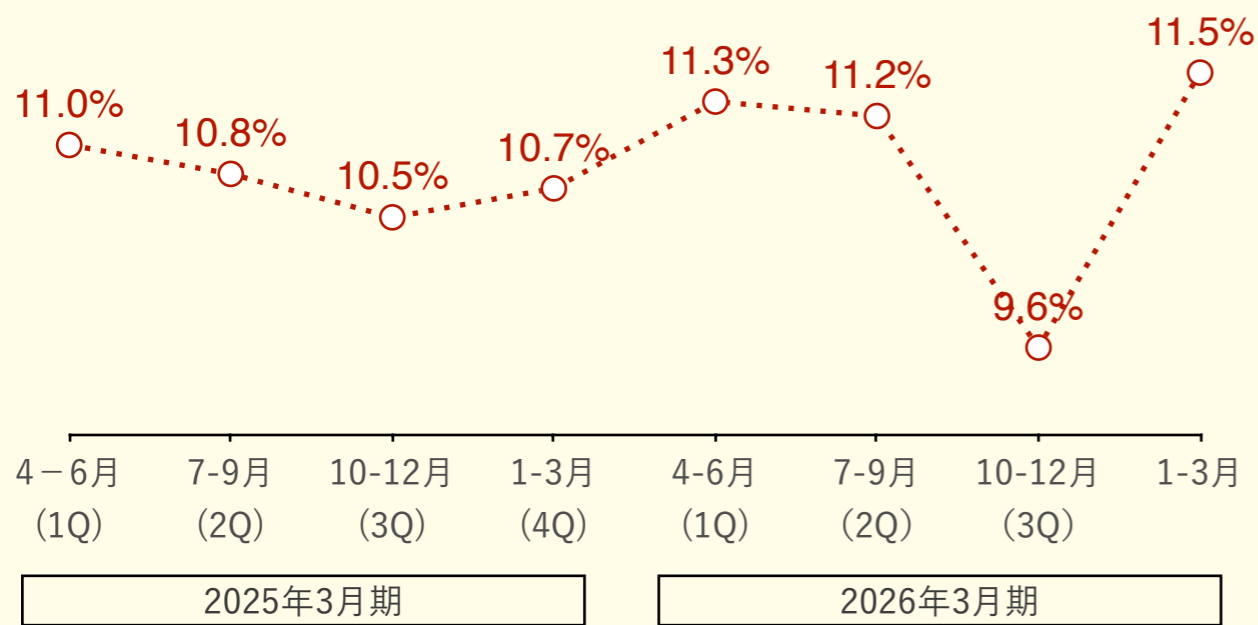
## 売上高原価率の推移



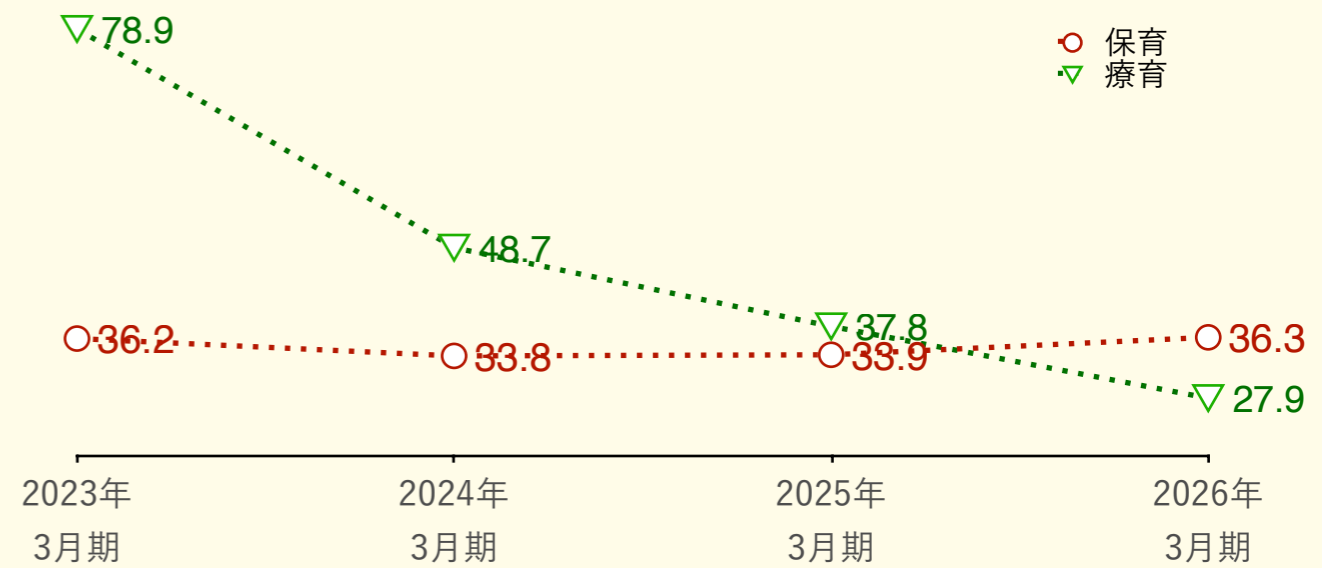
## 離職率の推移



## 売上高販管費率の推移



## 採用単価の推移 (万円)



# 6

## 投資・財務戦略



# M&A後のキャッシュフローと財務規律

M&A後の財務安全性を確保するため、Net Debt / EBITDA、営業CF / EBITDA、のれん償却後営業利益を主要財務KPIとして管理する。また、M&A投資規律として、買収後の営業キャッシュ・フローが年間元利返済額を上回る案件を原則とし、PMIによるEBITDA拡大と借入返済の両立を図る。

## キャッシュフロー

単位：億円（比率除く）

項目	2025年3月期実績	2026年3月期実績	前期比増減
EBITDA	14.4	17.8	+3.4
営業CF	14.0	9.0	▲5.0
営業CF / EBITDA	約100%	約50%	▲50pt
投資CF	▲4.0	▲114.0	▲110.0
フリーCF	+10.0	▲105.0	▲115.0
財務CF	▲3.0	+121.0	+124.0



## Net Debt / EBITDA

2026年3月期末は、きららGHD取得に伴う有利子負債を反映した一方、対象会社のEBITDAは通期寄与していないため、Net Debt / EBITDAは一時的に8.6倍へ上昇。2027年3月期はEBITDA27億円への拡大により、約5.7倍への改善を見込む。



## 営業CF / EBITDA

EBITDAの拡大に加え、営業CFへの転換を重視。2026年3月期はM&A関連費用等により約50%となったが、PMIによる収益改善を通じて営業キャッシュ・フローの創出力向上を図る。

## 財務レバレッジKPI

項目	2025年3月期実績	2026年3月期実績	2027年3月期 予想ベース
Net Debt / EBITDA	3.3倍	8.6倍	約5.7倍
のれん償却後営業利益	7.3	11.1	黒字維持



## M&A投資規律

のれん償却後も営業黒字を維持。J-GAAPベースで、のれん償却後営業利益が初年度から黒字となる案件を原則とする。

2026年3月期末は、きららGHD取得に伴う有利子負債を反映した一方、対象会社のEBITDAは通期寄与していないため、Net Debt / EBITDAは一時的に上昇。



# キャッシュアロケーションの考え方

M & A の有利子負債の返済と、中長期的な企業価値向上のための成長投資を推進。

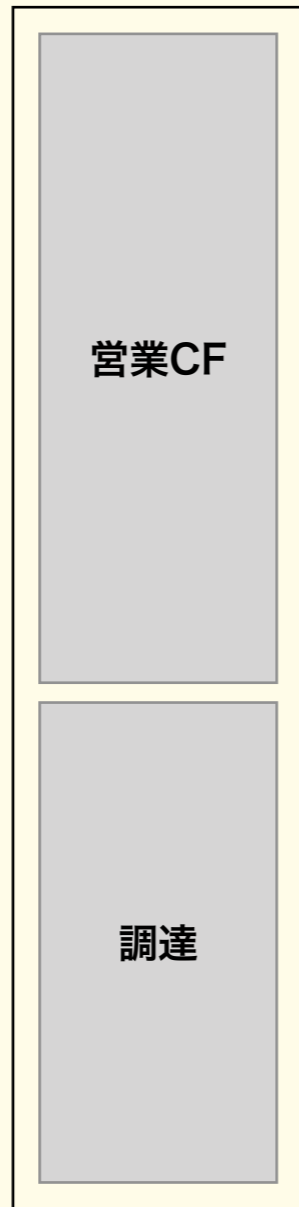
## 2026年3月時点 連結BS

現預金 41	有利子負債 194
のれん 82	
その他資産 147	その他負債 43
	純資産 32
総資産 269	負債・純資産合計 269

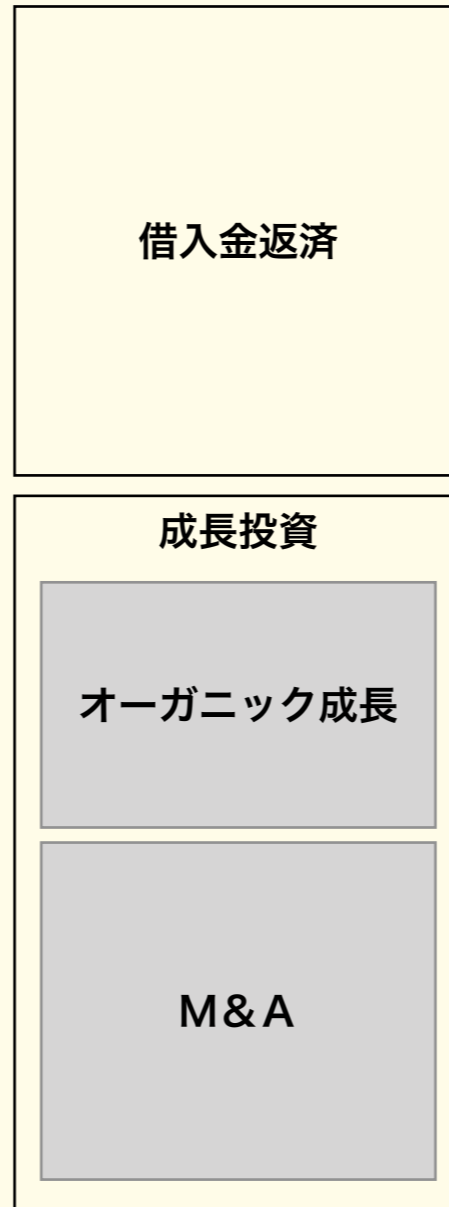
自己資本比率=12.1%

(億円)

## キャッシュイン



## キャッシュアウト



## 投資基本方針

### M&A投資規律

#### ①返済可能性

買収後の対象会社が創出する営業キャッシュ・フローが年間元利返済額を上回る案件を投資対象とする。

#### ②損益耐性

J-GAAPベースで、のれん償却後営業利益が初年度から黒字となる案件を原則とする。

#### ③戦略適合性

AIAI三育圏との親和性が高く、主要都市でのドミナント形成、AIAI PLUS・REST・VISIT・教育との連携、本部集約等のPMIシナジーを発揮できる案件に限定する。

### 連結財務規律

#### ①純資産維持

連結純資産は、直前連結決算期末の75%以上を維持する。

#### ②収益維持

連結経常利益について、2期連続で損失を計上しない。

連続的なM&A実行による財務負担の影響が大きいいため、M&Aの投資回収およびPMIの時間軸も定める。

また、底堅い利益基盤によるキャッシュフローの創出と、M&Aの実績に裏付けられた投資効率（ROI）等を前提に、財務規律を設定。



# 株主還元方針

EPS最大化を通じた還元。成長投資を優先し、中長期的な株価の上昇を目指す。

## 株価

継続的にEPSを向上させることで、中長期的な株価の上昇を目指す

## 配当

企業価値の持続的な向上のための成長に必要な事業投資やM&Aを優先

## 株主優待

今後は株主優待制度による還元よりも、収益力の向上および成長投資を通じた  
企業価値・株式価値の向上を優先。  
2026年9月の株主優待送付をもって廃止予定

## 自己株式取得

資本効率、株価水準、財務余力を総合的に勘案して検討  
(2025年9月に約3億円の自己株式取得を実施済)



# キャッシュアロケーションの方針

安定的な営業キャッシュ・フロー、負債調達、必要に応じたエクイティ調達により、成長のための事業投資およびM&A資金を確保し、継続的な成長に向けた資本配分を行う。

## 資金調達の方針

### 営業キャッシュフロー

安定的に営業CFを創出



### 有利子負債等

投資基本方針に照らして、必要資金を調達



### エクイティ

EPSの向上を前提に株価、市場、財務状況等をもとに判断

## 資金配分の方針

### 事業投資

保育・療育事業の成長のための事業投資



### 戦略投資 (M&A)

連続的なM&A実行のための戦略投資



### 株主還元

株価水準と資金余力に応じて、自己株式取得を検討

7

# Appendix



会社名 **AIAIグループ株式会社**



創業 **2007年1月**



代表者 **貞松 成 (Sadamatsu Joe)**



所在地 **東京都墨田区錦糸1-2-1**



事業 **認可保育、児童発達支援、訪問支援  
業務支援、人材サービス等**



事業所 **AIAI NURSERY, AIAI PLUS, REST, VISIT  
雲母保育園、キララサポート等**



役員

代表取締役社長兼CEO 貞松 成  
 取締役COO 木本 彰  
 取締役CFO 戸田 貴夫  
 取締役 内田 昌昭 (監査等委員)  
 社外取締役 野口 洋 (監査等委員)  
 社外取締役 豊泉 美穂子 (監査等委員)



代表取締役社長兼CEO  
**貞松 成 博士 (教育学)**

### ビジョン

**社会課題を解決し、世の中に貢献する**

- ・ 早稲田大学大学院政治学研究科修了  
(公共経営修士MPA取得)
- ・ 大阪総合保育大学大学院児童保育研究科  
(最優秀卒業論玉置哲淳賞受賞)

- **2007年 株式会社global bridge 創業**  
・ あい・あい保育園を千葉市幕張に開園
- **2011年 大阪市に関西オフィスを開設**  
・ Child Care Systemを販売開始
- **2015年 株式会社global bridge HOLDINGSを設立**  
・ 持株会社体制へ移行
- **2017年 東京証券取引所TOKYO PRO Marketに上場**  
・ 本社を現在地 (東京都墨田区錦糸) に移転
- **2019年 東京証券取引所マザーズ市場に株式を上場**
- **2022年 A I A I グループ株式会社に社名変更**  
・ グロース市場へ移行



## AIAIグループ株式会社



AIAI CHILD CARE 株式会社

- AIAI NURSERY
- AIAI PLUS
- AIAI REST
- AIAI VISIT



株式会社 CHaiLD

Child Care System 教材、写真販売等

CCS MEMORU



kokoro  
lingua




株式会社きららグループホールディングス

- 株式会社モード・プランニング・ジャパン
- 雲母保育園
- キララサポート



年	月	概要
2007	1	東京都葛飾区新小岩に株式会社global bridgeを設立
2007	3	千葉県千葉市に、「あい・あい保育園 幕張園」を開設
2011	11	保育園運営管理システム「Child Care System」の提供を開始
2015	11	持株会社株式会社global bridge HOLDINGSを設立し、株式会社global bridgeを子会社化
2015	12	株式会社social solutionsを設立し子会社化
2017	10	東京証券取引所 TOKYO PRO Marketに上場
2018	7	株式会社東京ライフケアの株式を取得し完全子会社化、サービス付き高齢者向け住宅の運営を開始
2018	11	株式会社YUANの株式を取得し完全子会社化、住宅型有料老人ホームの運営を開始
2019	2	株式会社YUANの社名を株式会社global life careに変更
2019	4	株式会社東京ライフケアの介護事業を株式会社global life careに承継
2019	12	東京証券取引所マザーズ市場に株式を上場
2020	4	株式会社global bridgeの社名を株式会社global child careへ変更
2021	1	株式会社social solutionsの社名を株式会社CHaiLDに変更
2022	1	社名および屋号をすべてA I A Iブランドに統一
2022	4	東証の市場区分見直しにより、東証マザーズ市場からグロース市場へ移行
2024	5	AIAI Life Care株式会社の全株式を株式会社QLSホールディングスへ売却
2025	4	AIAI Child Care株式会社が、テルウェル東日本株式会社よりぽこころ株式会社の株式を取得し完全子会社化
2025	5	AIAI Child Care株式会社が、株式会社在宅ケアサービスより事業譲渡により認可保育園3園を譲受
2026	2	株式会社きららグループホールディングスを子会社化



## 免責事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、当社の現状をご理解いただくことを目的として作成したものです。

当社は、当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としております。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の実績はさまざまなリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。

したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料およびその記載内容につきまして、当社の書面による同意なしに、第三者がその他の目的で公開または利用することはご遠慮ください。